

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

皇后盃 第66回全日本なぎなた選手権大会
第21回全日本男子なぎなた選手権大会



皇后盃で史上初の大会4連覇を達成した林田智笑五段（右）

第2回わんぱく相撲
女子全国大会



各学年の優勝者＝（左から）梶原千愛さん（6年）、楠田空楽さん（5年）、松田実樹さん（4年）

第70回天皇杯
全日本相撲選手権大会



優勝＝中村泰輝参段



準決勝②＝佐藤（左）が低い姿勢からスネを攻める



準決勝①＝林田智笑（右）がメンで姉・葉純に競り勝つ



3位決定戦＝林田葉純（右）がスネを決める

時間内に勝敗がつかない場合は、判定で勝者を決した（決勝は3分の延長あり）。準決勝には、3連覇中の林田智笑（大阪）、林田葉純（同）、服部ゆかり（茨城）、佐藤あき子（熊本）の4名が勝ち上がった。

▽準決勝①
林田智笑 メー 林田葉純
準決勝第1試合は注目の姉妹対決

となった。常に稽古を共にしている両者は互いに手の内を知っているため、タイミングを見計らって技を打ち、捌き合う。試合開始から1分過ぎ、智笑が葉純より1歩早く飛び込んでメンを奪う。葉純も負けじと技を繰り出す。智笑はこれを許さないうちに勝負を決めた。智笑が姉を制して決勝へ進んだ。

▽3位決定戦
林田葉純 スー 服部ゆかり
林田は序盤から足を動かして鋭く技を打ち込む。対する服部も隙を見て技を仕掛けようとするが、林田の守りが固く上手く攻め込むことができない。開始から2分30秒、林田が遠回しに一気にメンに飛び込むものの一本にならない。そして終盤の4分30秒過ぎ、再び林田が動く。遠回しにスネを打ち込み一本。残り30秒も林田が攻撃を捌ききり、試合終了の合図。林田が3位入賞を決めた。



決勝＝林田智笑（左）が1本目のコテを決める

皇后盃第66回全日本なぎなた選手権大会 林田智笑（大阪）が初の4連覇

林田姉妹が大会初の同時入賞

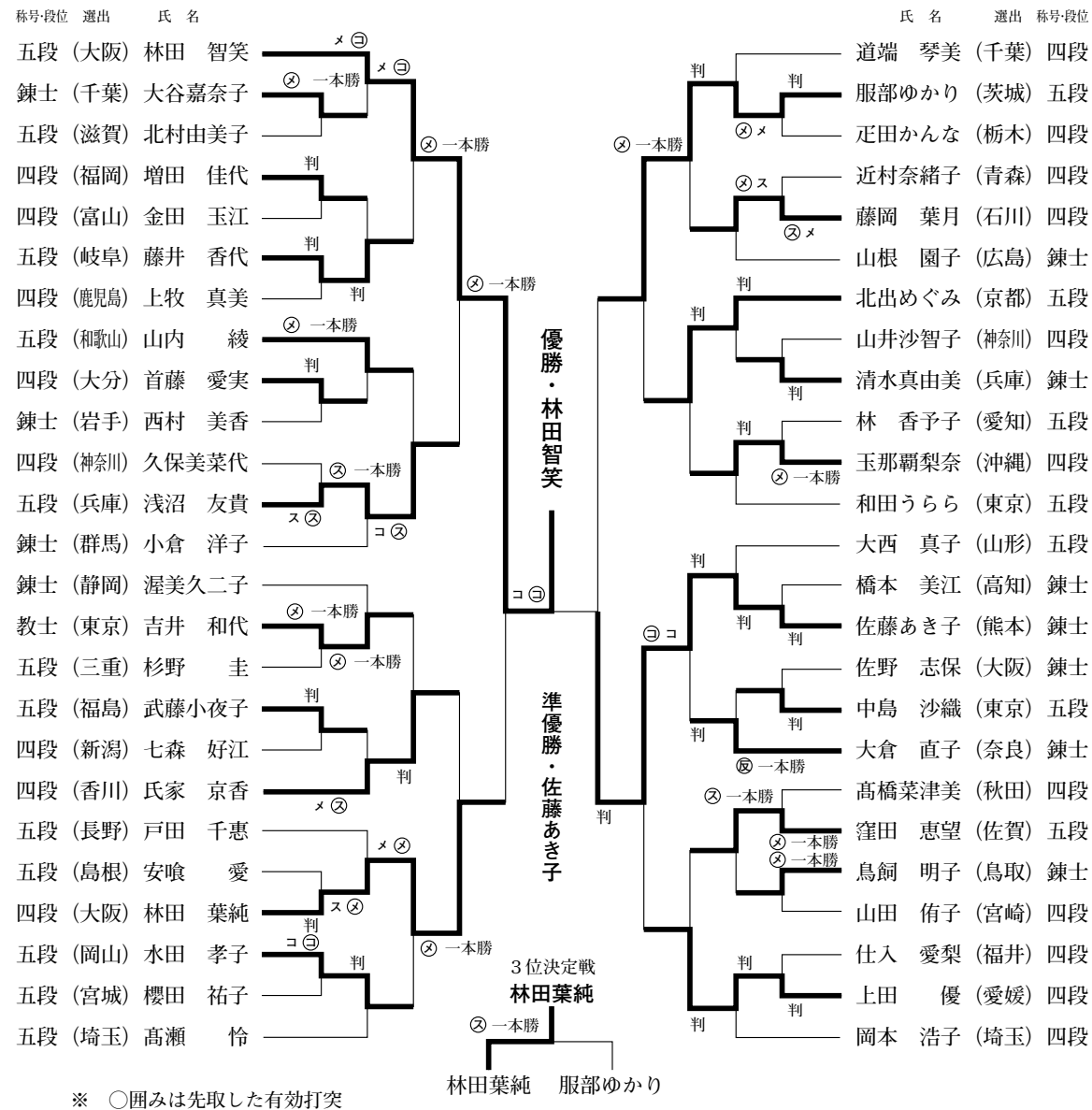
皇后盃第66回全日本なぎなた選手権大会（主催Ⅱ全日本なぎなた連盟）は、昨年12月5日、兵庫県立武道館（兵庫県姫路市）で開催された。一昨年の前回大会は新型コロナウイルスの影響で中止となり、今回は無観客となったものの、2年ぶりの開催となった。大会には全国各地から予選を勝ち抜いた50名の選手が集い、日本一の座を競った。

決勝は第64回大会まで3年連続優勝の林田智笑（大阪）と佐藤あき子（熊本）の対決となった。試合は林田がコテを2本決めて勝利し、大会初となる4連覇を達成。3位には優勝した林田の姉、林田葉純（大阪）が入り、大会初の姉妹同時入賞を果たした。

◇
開会式では佐藤浩市全日本なぎなた連盟会長が挨拶した後、武田政義兵庫県なぎなた連盟会長が歓迎の言葉を述べた。中村ゆり子審判長が競技上の注意を説明し、続いて前回優勝の林田智笑が選手宣誓を行った。

大会はトーナメント形式で行われ、試合時間は5分間の3本勝負。

皇后盃 第66回全日本なぎなた選手権大会



「2年前に足の靭帯を切って手術をし、さらにコロナの影響から満足に練習のできない状態で大会に臨みました。その中でも自分にできることを精いっぱいやって3位という結果に繋がりました。とても嬉しいです。大会前には大阪にいる先生方の指導で練習しました。次は優勝を目指し、周囲の力を借りながら頑張っていきます」

入賞者インタビュー
 準優勝Ⅱ佐藤あき子（熊本）
 「コロナの影響で試合形式の練習をほとんど行わずにぶっつけ本番で大会に出場しました。なぎなた歴35年以上の経験を出そうという気持ちで試合に挑みました。大会までの練習は両親に作ってもらった道場小屋で打ち込みを2年間行い、大会直前には1人のみと対人練習を実施しました。今後は今回の結果を受け止め、日々の稽古を積んでいきたいと思っています」
 3位Ⅱ林田葉純（大阪）
 「2年前に足の靭帯を切って手術をし、さらにコロナの影響から満足に練習のできない状態で大会に臨みました。その中でも自分にできることを精いっぱいやって3位という結果に繋がりました。とても嬉しいです。大会前には大阪にいる先生方の指導で練習しました。次は優勝を目指し、周囲の力を借りながら頑張っていきます」



決勝＝林田（右）が鋭いメンで攻める

「練習が不十分な状態で出場したので、自分の中で連覇はあまり頭になく新たな気持ちで大会に臨みました。試合中は自分のできるところを精いっぱいコートの上で出そうという気持ちで挑みました。（準決勝で姉・葉純と対決する際の心境は）自分が勝ち上がれば姉も勝ち上がると思っており、『やっぱりな』と思っていました。お



優勝 林田智笑（大阪）

◎優勝者インタビュー

互いよく知っている相手なので『勝負するならここ！』という場面を決めてコートに入りました。決勝の佐藤選手は技が速いので、相手の間合いに入ってしまうとすぐに一本取られてしまうと思います。できるだけ自分の間合いから攻めることと最後まで打ち切ることを意識して挑みました。今回の大会は練習不足で八相の技を使って攻めることがあまりできなかつたので、今後は試合展開や技をもっと使えるようにしたいと思っています。現在、高校でなぎなた部の指導を行っているのですが、生徒を全国大会に出場させることが今後の目標です」

◎決勝 林田智笑 ココー 佐藤あき子
 決勝は新旧女王の対決となった。林田は序盤から積極的にメンに飛び込む。対する佐藤はその動きを読み、攻撃を潜って躲しつつスネを攻める。試合開始1分過ぎ、林田が仕掛ける。遠間に引いたところから一気になぎなたを伸ばしてコテを打ちこむ。これに赤旗が3本上がり、林田が先取。佐藤は息を切らしながらも相手の動きを見ながら果敢にスネを打ち込む。しかし、林田は佐藤からの攻撃を冷静に捌きつつ、鋭いメン・スネを仕掛ける。そして試合開始から4分過ぎ、林田が再び遠間から素早いコテを放ち、一本を決め試合終了。見事林田が大会初の4連覇を達成した。



3位決定戦＝増田良明（右）が1本目のメンを決める



準決勝①＝増田道仁（右）がスネを決める



決勝＝増田（右）がメンを決めて一本勝

第21回全日本男子なぎなた選手権大会 増田道仁^(兵庫)が3連覇達成

第21回全日本男子なぎなた選手権大会が、昨年12月4日、兵庫県立武道館で無観客により開催された。大会には各都道府県や大学から男子選手49名が出場し、覇を競った。

決勝は、3連覇を狙う増田道仁^(兵庫)と本大会3度目の出場となる山下大輝^(奈良)の対戦となった。試合は増田がメンを決めて一本勝ちし、優勝した。3位は増田の父、増田良明^(兵庫)で前回大会同様、親子で入賞を果たした。

大会はトーナメント戦で行われ、試合時間4分間の3本勝負。時間内に勝敗が決しない場合は判定とした（決勝のみ2分の延長あり）。

準決勝には、3大会連続通算4回目の優勝を目指す増田道仁、山下大輝、増田良明と榊原悠太（国際武道大学）が勝ち上がった。

▽準決勝①

増田道仁 スー 榊原悠太
準決勝第1試合は安定した強さを見せる増田と鋭い技を決めて勝ち上がった榊原の対戦。先に攻めたのは増田。増田が距離を詰めてメンに入ろうとし、榊原はこれを防ごう

○準優勝Ⅱ山下大輝（奈良）



「3回目の出場ですが、嬉しい気持ちです。1、2回目の出場の際には増田親子に序盤で負けていたのですが、今回準決勝で良明さんを降すことができたのは実りのある試合だったと思います。」

▽3位Ⅱ増田良明（兵庫）



「今はホッとしています。地元開催のプレッシャーで、2週間前から食事が進まなくなりました。また、1週間前には足の肉離れを起こして、2日前まで歩けない状態でした。初戦は足の痛みで苦しみましたが、その後は意識を変えて挑みました。」

私は試合で緊張してしまう方ですが、できる限り平常心で挑みたいと思っていますので、今後はそれを目標に頑張ります」

▽決勝

増田道仁 メー 山下大輝

山下は試合開始から積極的に前に出てメンで攻め込む。試合開始から50秒過ぎ、いきなり試合が動く。遠くから両者ほぼ同時にメンに飛び込む。判定は赤旗が3本上がり、増田の有効打突に。山下も一本を取り返そうとメンやスネを放つも増田がこれを許さない。そのまま試合時間終了の合図が鳴り、増田が前人未到の3連覇を達成した。

◎入賞者インタビュー

◎優勝Ⅱ増田道仁（兵庫）



「今回は地元開催ということでプレッシャーもありましたが、多くの人から声をかけてもらい、それが力になりました。結果は非常に嬉しいですが、内容は反省する部分が多くありました。実戦が長い間できなかったもので、試合の感や技術などを今大会で学びました。今後は試合に勝つことだけでなく武道としてのなぎなたを研究していきたいです」

第 70 回天皇杯全日本相撲選手権大会

中村泰輝が初のアマ横綱

(日本体育大3年)



決勝は中村泰輝(右)が神崎大河を寄り切りで下し、初優勝を決めた

第70回天皇杯全日本相撲選手権大会(主催Ⅱ日本相撲連盟)は2021年12月5日、国技館(東京・両国)で開催された。アマチュア相撲日本一を決める本大会には、全国各地から124名(4名欠場を含む)が参加した。

決勝で19年の学生横綱の中村泰輝(なむらただいき)が神崎大河(かみざきたいが)参段(日体大3年)を寄り切りで初優勝し、アマチュア横綱に輝いた。前回優勝の花田秀虎参段(日体大2年)に続き、日体大勢が2年連続で大会を制した。3位にはボルドバートルオドフ参段(東洋大2年)と、前回に続き松園大成四段(日体大職)が入った。

試合は選手を4グループに分け予選を実施。各グループから4名を選出し、勝ち残った優秀16選手で抽選を行い決勝トーナメントの組み合わせを決めた。

◇

会場の国技館には午前8時の開場を前に観客の長い列ができ、報道陣が例年以上に詰めかけた。優秀16選手による決勝トーナメントはNHKで生中継された。



準々決勝①
オドフ(右)○押し出し 山口怜央
オドフは山口を下して初の準決勝進出を果たす



準々決勝③
神崎大河(左)○押し出し 花田秀虎
神崎は全国大学選抜選手権でのリベンジを果たし準決勝へ

■決勝トーナメント(準々決勝)

▽オドフ ○押し出し 山口怜央
予選から徐々に調子をあげたオドフは前回大会2位の山口(正光会)を押し出して退け、準決勝に駒を進めた。

▽中村泰輝 ○上手投げ 落合哲也
19年の学生横綱の中村と21年の高校生横綱の落合(鳥取城北高)が対戦。落合が中村の右差しを巻き返してもろ差しの形を作る。不利な体勢となった中村だったが落ちて回って回り込み、上手投げで勝利を収めた。

▽神崎大河 ○押し出し 花田秀虎
花田(日体大)は立ち合い直後に間合いを詰める。神崎は前に出てきた花田を叩き込むが花田は崩れない。花田が右を差して肩透かしを狙うも神崎がしっかりと対応し、一気に花田を押し出して準決勝へ。



準々決勝②
中村泰輝(上)○上手投げ 落合哲也
中村は落ち着いて狙い澄ました上手投げで勝利する



準々決勝④
松園大成(左)○突き倒し 嘉陽快宗
日体大の先輩後輩対決は先輩の松園に軍配

▽松園大成 ○突き倒し 嘉陽快宗
社会人1年目の松園と大学4年の嘉陽の日体大先輩後輩が対戦。稽古で互いの手の内を知り尽くしている2人。懷に潜り、もろ差しを狙う嘉陽に対し、松園はうまくいなして嘉陽の横に付き、突き倒して勝利し、準決勝進出を決めた。



決勝

中村泰輝（右） ●寄り切り 神崎大河

大学生同士の対決。鋭い立ち合いを見せたのは神崎。神崎のつっぱりで中村の体が一瞬のけ反る。しかし中村はうまく対応し、右を差して一気に寄り切った。勝負が決まった瞬間、中村は思わず顔を覆った。



準決勝①

中村泰輝（左） ●突き出し オドフー

大学3年の同学年対決。中村が立ち合いで体ごとぶつかると、オドフーはこれをまともに受けて土俵際まで一気に押し込まれ、そのまま中村は突き出して決勝に進出。

優秀16選手決勝トーナメント



第3位 優勝

オドフー 松園 神崎
大成 大河



準決勝②

神崎大河（右） ●突き出し 松園大成

神崎は立ち合いから激しいつっぱりで松園を攻める。松園は土俵際、おっつけで反撃の機会をうかがう。神崎は休まず攻め続け、松園を突き出して破り、決勝進出を決めた。

前回大会の敗戦乗り越え掴んだ栄冠

◎優勝Ⅱ中村泰輝参段(日本体育大学)



——優勝おめでとうございます。

この1年やってきたことが無駄ではなかったと証明できました。どん底を味わって相撲が怖くなった時期もありましたが、頂点を取れてうれしいです。

前回大会で後輩の花田がアマ横綱に、デルゲルバヤル先輩が学生横綱とチームメイトの活躍を目の当たりにして、おめでとうという祝福の気持ちはありましたが、自分が結果を出せなくて悔しい気持ちの方が大きくて、いつか追い抜いてやろうと思っていました。

——ここまで来るのに稽古で意識してきたことは。

これでいいやという自己満足だけの稽古になってしまい、追い込む稽古をしてきませんでした。

きっかけは前回大会の準決勝で川淵一意選手(日大)に土俵下まで吹っ飛ばされたことです。今まではそういう経験がなく、初めてだったので自分の中で精神的にかなりやられて屈辱的な思いをしたことが頭から離れませんでした。それから普段から自分に厳しい稽古を課すようになりました。中学・高校と違って自分でどれだけ厳しくやれるかが勝負だと思っています。あの時の敗戦があったからこそ、今日の優勝につながっていると思います。

——大学1年の時の自分を越えようというプレッシャーがあったか？

1年で学生横綱になり栄光だと言われますが、もう過去のことです。今回の優勝も年が明ければ過去の栄

光となりますが、年内はアマチュア横綱(という喜び)に浸りたいです。

——自分の武器について。

武器は突き押しです。長い手足を生かしたスピード相撲が自分の持ち味です。廻しを取ると何もできません。がっぷり四つの相撲は取りたくないの、なんとしても距離をとってスピードを生かして勝負したいです。ぶつかり稽古はチーム内でも一番やっているという自信があります。

——柔道の阿部詩さんに影響を受けたと聞きました。

日体大で同じ学科にいて、東京オリンピックで金メダルを獲得したのはすごいと思います。しかし同時に負けたくないという気持ちがありました。

——どんな力士を目指しますか。

将来は大相撲にいきたいですが、次のこの大会を制して、大学卒業後にプロを目指すつもりです。特に目標の力士はいません。唯一無二の誰からも憧れとされる人になりたいと思います。

国技館で小学生が熱戦を展開

第34回全日本小学生相撲優勝大会

全日本相撲選手権大会に先立ち、JOCジュニアオリンピックカップ第34回全日本小学生相撲優勝大会が国技館で行われた。第33回大会はコロナの影響で中止され、2年ぶりの開催となった。

本大会は、各ブロックの相撲連盟が実施した地区予選大会の結果で出場代表選手を決定。6年生32名、5年生31名、4年生以下32名が参加し、各部門の代表選手が優勝を争った。

■各部門の優勝者インタビュー



6年生の部
かたぎりきょうせい
片桐泰晟
(石川県)



片桐(左)は相手をよく見て引き落としを決め優勝を果たした

「人一倍練習してきたので今日は自信を持って大会に臨めました。土俵を使つての練習は週2回ぐらいで、それ以外の日はお父さんを相手に毎日トレーニングをしています。今回、この1年間の成果が出せました。お父さんに恩返しするつもりで土俵に上がりました。今日の相撲は100点満点です。

12月2日に大相撲の白鵬関の事務所に行つて、白鵬関の布団で寝ることができパワーをもらいました。また炎鵬関から優勝目指して頑張つてほしいという言葉をかけてもらい非常に力になりました」



5年生の部
さきひさつぐ
佐々木久継
(静岡県)



佐々木(左)はわんぱく相撲のリベンジを果たして優勝

「初の決勝でとても緊張しました。これまで全国大会での優勝はなかったけど、今日は勝てる自信がありました。今日の相撲は85点くらい。時々焦って腰が立つてしまうことがあったのでその辺を修正したいです。

昨年のわんぱく相撲は3回戦で東京の熊谷毬太君に負けました。今回は工夫して練習してきた成果が出てリベンジすることができました。わんぱく相撲の1位と2位を倒して優勝できてうれしいです」



4年生以下の部
おかやまゆうや
岡山裕弥
(青森県)



岡山(奥)は土俵際でねばり上手投げで勝利を収めた

「わんぱく相撲大会には青森県からの派遣がなく参加することができませんでしたでしたが、その分相手を研究する時間ができました。

決勝の相手の佐々木陽希君(秋田)は東北大会でも戦いました。とても強くなつていて、最後まで自分の相撲になりませんでした。でも日ごろから最後まで手を付かないように練習してきたおかげで勝てました。今は週5日、夕方から約3時間稽古をしています」



国技館の前には開場を待つ大勢の観客が詰めかけた



競技の合間には日本相撲連盟の高芳晴元理事(右)と円子昭浩前常務理事(代理)に相撲功労賞表彰が贈られた



【4年・3位決定戦】
井浦まる（右）○寄り倒し 新居莉乃愛
（新潟・新潟） （浦安・千葉）



【4年・決勝】
松田実樹（左）○寄り倒し 木原福
（秋田県・秋田） （ハルカス・大阪）



6年・決勝＝梶原（手前）が土俵際で起死回生の首投げを決め、連覇を達成した

梶原千愛

（6年・高砂）

が連覇達成

第2回わんぱく相撲女子全国大会

小学4～6年生による第2回わんぱく相撲女子全国大会は2021年11月14日、愛知県名古屋市内にあるパロマ瑞穂スポーツパーク相撲場で開催された。

6年生は梶原千愛（高砂・兵庫）が高森樹里（奄美・鹿児島）に首投げで勝利し、前回大会（2019年9月）の4年生優勝に続き、連覇を達成した。5年生は楠田空楽（ハルカス・大阪）が石井もも（東京A・東京）を押し出して破り涙の初優勝を飾った。4年生は松田実樹（秋田県・秋田）が木原福（ハルカス・大阪）に寄り倒しで勝ち初優勝を果たした。団体戦では、各学年で安定した力を発揮した大阪が優勝旗を手にした。

パーク施設内のレクリエーション広場で行われた開会式は、高橋雅大会実行委員長が主催者あいさつを行い、前回大会優勝の長崎チームから優勝旗が返還された。続いてルール説明、準備体操のち会場を相撲場に移し、予選競技が開始された。

本大会の出場資格は各地区大会（二部を除く）の上位入賞を果たした4、5、6年生の各1名の計3名。個人戦は学年別にトーナメント方式で、団体戦は各選手の成績を点数で

加算し、出場チームを対象として順位を決定した。

また、新型コロナウイルス感染防止のため、各学年のトーナメントを前半と後半にわけ、取組終了後に保護者と関係者を入れ替えるなど、徹底した感染対策が施された。

なお、開会式に先立ち、公益社団法人浦添青年会議所の久高将泰氏から第3回大会を22年9月4日に沖縄県で開催すると発表があった。

■4年生

▽準決勝

松田 実樹○寄り切り 新居莉乃愛
木原 福○突き落とし 井浦 まる
立ち合い松田が低い姿勢から踏み込むも新居が上手にかわす。その後、松田が素早く右を差して一気に寄り切り決勝へ駒を進めた。

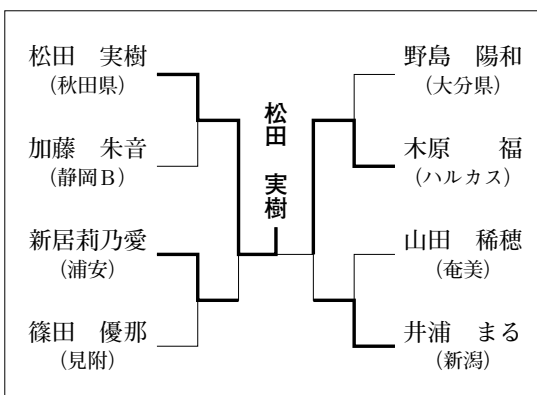
木原は立ち合いで有利な体勢を作るも井浦に土俵際まで押し込まれる。木原が腰を落として耐えたところで井浦が足を滑らせ、木原が逆転で決勝進出を果たした。

▽3位決定戦

井浦 まる○寄り切り 新居莉乃愛
井浦が立ち合いを制するも、新居が体を入れ替え右を差して有利な体勢を作る。井浦は土俵際で回り込み、これをしのいで素早く新居の横に付いて寄り倒しで勝利した。

▽決勝

松田 実樹○寄り倒し 木原 福
両者低い体勢から頭でぶつかり鈍い音がすると場内がどよめく。低い体勢のまま前に出る木原に対し、松田は木原に覆いかぶさりながら左を差して最後は寄り倒しで優勝を決めた。



準決勝＝松田（右）が新居を一気に寄り切る

■5年生

▽準決勝

石井 もも○寄り倒し 青木 菜南
楠田 空楽○押し出し 今井 歩夢
鋭い立ち合いを持ち味とする石井と青木の両選手。青木が低い姿勢から頭で突っ込むが、石井がこれを受け止めて前に出る。土俵際、青木が粘りを見せたが最後は石井が体を預けるように寄り倒し決勝進出を決めた。

楠田、今井両者が土俵中央で激突する。先に廻しに手が届いたのは今井。楠田は肩越しに廻しを掴む。今井はもう差しで下から突き上げるようにがぶり寄るが楠田はこらえ、反撃の機会をうかがう。1分を超える取組は、最後に楠田が土俵際で体を浴びせるようにして今井を押し出して勝負あり。



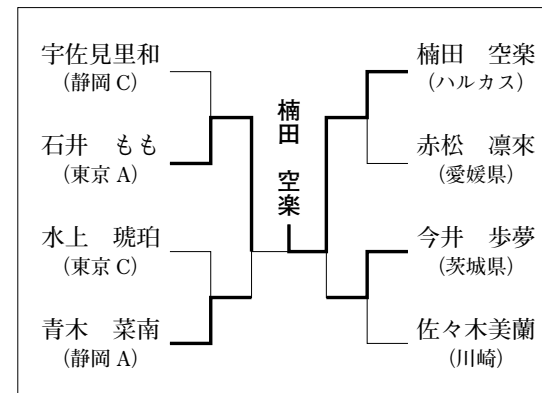
準決勝の楠田（奥）対今井の対戦は1分を超える大相撲となった

▽3位決定戦

今井 歩夢○寄り切り 青木 菜南
今井は準決勝の疲れを見せず、得意のもう差しからのがぶり寄りで青木を下し、3位入賞を果たした。

▽決勝

楠田 空楽○押し出し 石井 もも
楠田が会心の立ち合いを見せ、前に出る。真正面から受けきることができないと踏んだ石井は横に付こうとするも、楠田の勢いを止められずそのまま土俵の外へ。楠田が初優勝を決めた。



【6年・3位決定戦】

奥村真惟（左）○寄り切り 富永虹子
(ハルカス・大阪) (大村・長崎)



【6年・決勝】

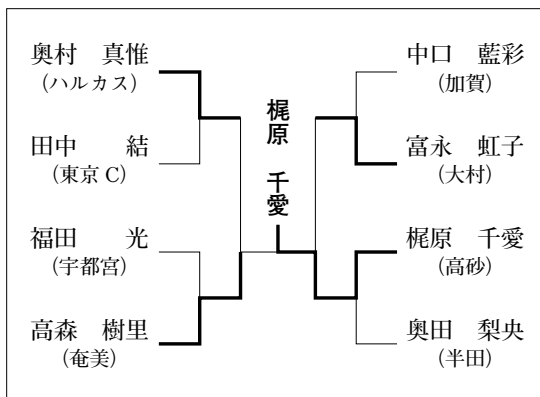
梶原千愛（奥）○首投げ 高森樹里
(高砂・兵庫) (奄美・鹿児島)

■6年生

▽準決勝

高森 樹里○押し倒し 奥村 真惟
梶原 千愛○上手出し投げ 富永 虹子
高森が一気に前に出てきたところを奥村が横に変化する。これに高森は落ち着いて右を差し圧力をかけてさらに前に出ると、奥村は体勢をくずし尻をついてしまう。高森が決勝進出を決めた。

富永は上背のある梶原に対し潜るように懐へ入る。梶原はこの侵入を組み止めて廻しに手をかける。梶原



準決勝で豪快な上手出し投げを決めた梶原（右）

は富永が前に出てくる力を利用して、上手出し投げで勝利し決勝へ。

▽3位決定戦

奥村 真惟○寄り切り 富永 虹子
立ち合いは互角。頭をつけて距離をとる奥村と廻しを取りたい富永。奥村が徐々に自分の形を作る。奥村は低い体勢から富永の頸に頭をつけ寄り切り、3位入賞を果たした。

▽決勝

梶原 千愛○首投げ 高森 樹里
序盤から高森が強烈な押しを見せ梶原の体が仰け反る。手の回転を止めない高森が攻め立てる。梶原は土俵際で粘り、最後は捨て身の首投げで高森を投げて勝利した。前回大会の優勝に続き、大会連覇を達成した。



【5年・3位決定戦】

今井歩夢（右）○寄り切り 青木菜南
(茨城県・茨城) (静岡 A・静岡)



【5年・決勝】

楠田空楽（右）○押し出し 石井もも
(ハルカス・大阪) (東京 A・東京)



◎4年優勝Ⅱ松田実樹（秋田県）

「1年生の時、お父さんに連れられてスポーツ少年団に

入り、相撲を始めました。秋田大会の優勝経験はありますが全国大会での優勝は初めてです。今日は自分の理想の相撲が取れてスッキリしました。次の大会でも優勝して金メダルを弟にかけてあげたいです」



◎6年優勝Ⅱ梶原千愛（高砂）

「大会が開催されるかすごく不安でしたが、開催される

ことが決定した時はとても嬉しかったです。



◎5年優勝Ⅱ楠田空楽（ハルカス）

「テレビで女子相撲をやっているのを見て4年生から本

格的に練習を始めました。週1回、堺相撲連盟で、その他の日は自宅で家族を相手に練習しています。3年生のときに参加した大会で負けてそこから一生懸命練習を続けてやっと勝てるようになりました。

今日は準決勝が一番苦しい試合でしたが、勝ちきることができて嬉しかったです」

お父さんが高砂出身だったこともあって、1年生の時に相撲の大会を見て楽しそうだなと思って2年生から練習を始めました。普段は高砂の競技場にある土俵で同級生や中学生の男子を相手に、土日の週2回、練習しています。憧れの選手は山中未久さん（立命館大戦）です。今後とも相撲を続けていこうと思います」



解説席では世界大会2位の今日和さん（中央）とお笑い芸人のあかつさん（右）が大会を盛り上げた



子どもたちに人気のキャラクターも大会の応援に駆けつけた



第1回大会の6年生横綱 島袋心海さん

「今日は沖縄代表の後輩の応援で会場にきました。土俵整備の係をやらせてもらっている係の人などに少しは恩返しできたかなと思います。これからは感謝の気持ちを忘れずに相撲に取り組みたいと思います」



団体優勝の大阪チーム



◎会場運営担当者

公益社団法人
名古屋青年会議所
岩田明子常任理事

「2020年9月に開催が予定されていた本大会は、コロナの影響で延期となりましたが、今回、無事に大会が開催できたことを嬉しく思います。

準備を進める中で、緊急事態宣言の発出、会場変更など数々の苦難がありました。開催の是非を巡り、これまで総勢150名のスタッフが一丸となり、打ち合わせを重ね

てチームワークで乗り越えることができました。

相撲という競技は男子のイメージが強いと思いますが、女子も全国各地に素晴らしい選手が大勢います。彼女たちの相撲競技にける熱意を、このわんぱく相撲をきっかけに多くの方に知ってもらいたいです。



場内には家族や関係者が多く詰め掛けた

青空の下、にぎわう会場



会場となったパロマ瑞穂スポーツパーク相撲場



栄和人
至学館大学
レスリング部監督

「昔、相撲をやっていた今も好きなので、プライベートで見学にきました。豪快な投げ技などを見られ、非常にレベルが高いことに驚いています。このわんぱく相撲をきっかけに女子の相撲界が盛り上がることを期待します」



昼食休憩にはレクリエーション広場に用意されたキッチンカーに長蛇の列ができた

